

【 まちの将来像6 】

心がけから行動へ
みんなで創る環境にやさしいまち

施策評価シート

1 施策の概要

1	まちの将来像	6	心がけから行動へ みんなで創る環境にやさしいまち			
2	施策	6-1	いごこちの良い生活環境をたもつ			
3	対応するSDGs					
4	施策の方向性 (後期基本計画より)	大気・水環境等の環境監視による環境の把握に努めるとともに、事業者に対する指導や公共下水道・公設浄化槽の整備による環境の保全対策を進めます。また、環境美化や路上喫煙防止などについての意識啓発を進め、市民一人ひとりのマナーが向上し、いごこちの良い生活環境を保ちます。				
5	評価者等		部 名	補職名・課名	氏 名	
		評価者(部長級)	産業環境部	部 長	松本 栄子	
		施策主担当課	産業環境部	環境政策課	—	
	施策関係課	市民生活相談課、資源循環課、環境事業課、下水道総務課、下水道施設課				
6	施策内の取組	6-1-1	健康に過ごすことができる生活環境の保全			
		6-1-2	新たな環境課題への対応			
		6-1-3	快適環境の保全			

2 令和4年度末現在の施策の現状と課題

1	総合評価	B	A 施策の方向性に沿って順調に進行している。 B 施策の方向性に沿っておおむね順調に進行している。 C 施策の方向性に沿った進行にやや遅れが生じている。 D 施策の方向性に沿った進行に大幅な遅れが生じている。			
2	評価理由(R4年度の主な成果、総合評価に影響を与えた外的な要因等)		R4年度末現在の施策の主な課題			
	生活環境の保全に向けて、生活環境については、大気質や河川水質等は概ね環境基準を達成しています。公害苦情については、工事届出受理時に騒音対策の啓発を徹底していますが、対策下においても苦情が発生する場合があるなど、件数が増加傾向にあります。 また、生活排水対策については、公共下水道区域で水洗化の助成金を4件支給し、普及に努めるとともに、公共下水道として約36haの供用開始を行い、水洗化促進に継続的に取り組んだほか、下水道ストックマネジメント計画に基づき人孔鉄蓋を167箇所交換しました。 新たな環境課題への対応として、大規模災害時の流出リスク低減に向け、化学物質を取り扱う事業者に対して耐震化の進捗状況を確認し、指導・啓発を行いました。また、化学物質の排出量は多くの事業所で下降傾向です。さらに、ライフサイエンス系施設についても、すべての施設と、設置に伴う環境保全協定を締結するとともに、定期的な立入検査等により施設の適正管理の確認を行い、周辺環境に影響が及ばないように配慮することができました。 快適な環境の保全に向けた取組の一つである不法投棄については、警察と連携した不法投棄防止パトロールを行うなど、その抑止に努めています。また、所有者不明猫の避妊・去勢手術費補助については、令和4年度から補助額を増額し、不幸な猫を減らす取組を進めており、今後も動物愛護法の趣旨を踏まえ、本市活動団体とともに施策の継続を進める必要があります。 以上のことから、施策の方向性に沿っておおむね順調に進行していますが、騒音にかかる啓発等対策の取組を強化し、苦情の発生件数を抑えるなど課題解決への取組を推進する必要があることから、「B」評価とします。		課題①	解体工事等で提出される届出受理時に、騒音対策と周辺への工事内容の周知を徹底するよう引き続き指導していく必要があります。		
			課題②	供用開始率100%を目指し、総合的且つ計画的に整備を進め、また、公設浄化槽の設置を促進する必要があります。下水道施設の長寿命化では、事業費の平準化を図るため、施設の健全度を把握する必要があります。		
			課題③	化学物質の排出量削減に向けての事業所指導を継続して行う必要があります。ライフサイエンス系施設の設置により周辺環境に影響が及ばないよう、適正な管理運営に向けての事業所指導を継続して行う必要があります。		
			課題④	路上喫煙は、今後も継続して啓発に取り組む必要があります。所有者不明猫の避妊・去勢手術費補助については、金額を増額したものの件数が減少しており、今後は本市活動団体の活動支援に取り組む必要があります。		
			課題⑤	不法投棄などが後を絶たないことから、広報誌・懸垂幕等による周知や看板による啓発を継続することで、一人でも多くの市民の環境美化意識を高める必要があります。		

1	まちの将来像	6	心がけから行動へ みんなで創る環境にやさしいまち
2	施策	6-1	いごちのよい生活環境をたもつ

3 施策内の取組の評価

1	取組	6-1-1	健康に過ごすことができる生活環境の保全				
2	主担当課	部名	産業環境部	課名	環境政策課	課長名 高橋 規子	
3	関係課	下水道総務課、下水道施設課					
4	目標 (後期基本計画より)	大気、水等の環境が良好な状態で維持されています。 事業活動に伴う排水や生活排水が適正に処理されています。					
5	R4年度末現在の取組の現状	取組の評価	評価理由(R4年度の取組内容と成果、影響を与えた外的な要因等)				
		b	生活環境については、大気質や河川水質等は概ね環境基準を達成しています。一方で、公害苦情については、工事届出受理時に騒音対策の啓発を徹底していますが、対策下においても苦情が発生する場合がありますなど、件数が増加傾向にあります。生活排水対策については、公共下水道区域で水洗化の助成金を4件支給したほか、公共下水道として約36haの供用開始を行い、水洗化促進に継続的に取り組んだほか、下水道ストックマネジメント計画に基づき人孔鉄蓋を167箇所交換しました。 以上のことから施策の方向性に沿って概ね順調に推移していますが、騒音に係る啓発の工夫等さらなる取組が必要であることから「b」評価とします。				
			a: 順調に進行 b: おおむね順調に進行 c: 進行にやや遅れ d: 進行に大幅な遅れ				
		参考指標	単位	めざす方向性	実績値		目標値(年度)
					R3年度	R4年度	
		一般環境における騒音の環境基準達成率	%	↗	97	94	90(R5)
公害苦情の件数	件	↘	44	46	20(R5)		
公共下水道の人口普及率	%	↗	99.4	99.5	99.5(R5)		

1	取組	6-1-2	新たな環境課題への対応				
2	主担当課	部名	産業環境部	課名	環境政策課	課長名 高橋 規子	
3	関係課						
4	目標 (後期基本計画より)	化学物質を取り扱う事業所では使用の低減と適正管理が行われ、ライフサイエンス系施設では環境保全協定が守られ、周辺環境が良好な状態で維持されています。					
5	R4年度末現在の取組の現状	取組の評価	評価理由(R4年度の取組内容と成果、影響を与えた外的な要因等)				
		a	化学物質の排出量は多くの事業所で下降傾向を示しており、さらに、大規模災害時の流出リスク低減に向け、化学物質を取り扱う事業者に対して耐震化の進捗状況を把握するなど指導・啓発を進めました。 ライフサイエンス系施設についても、すべての施設と設置に伴う環境保全協定を締結するとともに、定期的な立入検査等により施設の適正管理の確認を行いました。 以上のことから施策の方向性に沿って順調に推移しており「a」評価とします。				
			a: 順調に進行 b: おおむね順調に進行 c: 進行にやや遅れ d: 進行に大幅な遅れ				
		参考指標	単位	めざす方向性	実績値		目標値(年度)
					R3年度	R4年度	
		事業所における化学物質排出量(R2年度437t)	t	↘	432	集計中	前年度未満(各年度)
環境保全協定の締結率	%	→	100	100	100(各年度)		

1	まちの将来像	6	心がけから行動へ みんなで創る環境にやさしいまち
2	施策	6-1	いごこちの良い生活環境をたもつ

1	取組	6-1-3	快適環境の保全				
2	主担当課	部名	市民文化部	課名	市民生活相談課	課長名 多田 明世	
3	関係課	環境政策課、資源循環課、環境事業課					
4	目標 (後期基本計画より)	モラル・マナーの向上で快適な生活環境が保たれています。					
5	R4年度末現在の取組の現状	取組の評価	評価理由(R4年度の取組内容と成果、影響を与えた外的な要因等)				
		b	環境美化意識高揚のため、広報誌掲載や懸垂幕の掲出、啓発用看板の配布、啓発用動画のHP掲載等により市民等に周知・啓発を行いました。不法投棄については、警察と連携した不法投棄防止パトロールを行うなど、その抑止に努め、快適な生活環境の保全に向けた取組を進めています。所有者不明猫の避妊・去勢手術費補助については、令和4年度から補助額を増額し、不幸な猫を減らす取組を進めており、今後も動物愛護法の趣旨を踏まえ、本市活動団体とともに施策の継続を進める必要があります。以上のことから施策の方向性に沿って概ね順調に推移していますが、引き続き取組を強化する必要があります「b」評価とします。				
			a: 順調に進行 b: おおむね順調に進行 c: 進行にやや遅れ d: 進行に大幅な遅れ				
		参考指標	単位	めざす方向性	実績値		目標値(年度)
					R3年度	R4年度	
		路上喫煙率	%	→	0.162	0.144	0.2(R4)
所有者不明猫の避妊・去勢手術補助件数	匹	↗	232	141	240(R4)		
不法投棄収集量	kg	↘	157,740	121,870	180,000(R4)		

4 学識経験者の意見

第三者による施策評価(外部評価)として、1～3に記載の市における評価結果について、学識経験者からご意見をいただきました。いただいたご意見は今後の市政運営の参考にさせていただきます。

1	学識経験者	立命館大学政策科学部 豊田 祐輔 准教授
2	意見等	<ul style="list-style-type: none"> ・「施策の現状と課題」において現状認識が適切になされており、その成果が概ねあがっていることから、総合評価「B」は妥当であると考えます。 ・取組6-1-1の参考指標における「公害苦情の件数」については、コロナ禍による影響とみられる令和2年度に一時減少したものの再び増加傾向にあることから、具体的な発生原因に即した抜本的な対策が必要であるように見受けられるため、今後検討いただきたい。 ・取組6-1-2について、化学物質を取り扱う事業者に対する耐震化の進捗状況を把握したことが説明されているが、何か起こった際に市民生活に大きな影響を与えることから、現状と課題についても今後検討されることを希望したい。

施策評価シート

1 施策の概要

1	まちの将来像	6	心がけから行動へ みんなで創る環境にやさしいまち		
2	施策	6-2	バランスのとれた自然環境をつくる		
3	対応するSDGs				
4	施策の方向性 (後期基本計画より)	みどりを育む取組や生態系への配慮を推進するとともに、身近な「まちの緑」「農地」「里山」「水辺」を保全し、自然とふれあう機会の創出に取り組み、人の生活と自然とのバランスのとれた自然環境を創ります。			
5	評価者等		部 名	補職名・課名	氏 名
		評価者(部長級)	産業環境部	部 長	松本 栄子
		施策主担当課	産業環境部	農林課	—
	施策関係課	環境政策課、公園緑地課、下水道施設課			
6	施策内の取組	6-2-1	都市とみどりの共存		
		6-2-2	自然資源の利用の推進		
		6-2-3	生物多様性の保全		

2 令和4年度末現在の施策の現状と課題

1	総合評価	B	A 施策の方向性に沿って順調に進行している。 B 施策の方向性に沿っておおむね順調に進行している。 C 施策の方向性に沿った進行にやや遅れが生じている。 D 施策の方向性に沿った進行に大幅な遅れが生じている。		
2	評価理由(R4年度の主な成果、総合評価に影響を与えた外的な要因等)		R4年度末現在の施策の主な課題		
	<p>都市とみどりの共存については、花と緑の街角づくり推進事業が目標を超える参加者数を維持するとともに、民有地緑化助成事業の補助件数及び緑の相談・緑の勉強会の参加者数が前年度に比べて件数が倍増するなど、市民の緑化活動が進められています。</p> <p>自然資源の利用の推進については、森林サポーター養成講座修了生が直近5年間で91名となるなど、森林保全ボランティア活動を推進しました。また、市民や林業団体が行う里山保全活動に対し支援を行いました。さらに、農地中間管理機構等を通じて遊休農地の新たな担い手の確保や、農業委員会とも連携した取組を進めたほか、エコ農産物栽培を推進し、約13.6haの圃場で栽培支援を行いました。</p> <p>生物多様性の保全については、環境資源補完調査を7回実施し、市内の多様な生きものが生息・生育できる環境が大きく損なわれていないことを確認するとともに、調査員養成講座を5回開催するなど持続的な事業実施に向けて取組を行いました。また、市内の自然や生きものに関する紹介や生物多様性関係の講座等を行う「いばらきの生きもの博」を開催し、市民が生物多様性に興味を持つきっかけづくりを図りました。</p> <p>以上、概ね順調に推移していますが、事業の周知や新たな参加者層の発掘、多様な視点を取り入れた仕掛けの必要性があることから、「B」評価とします。</p>		課題①	花と緑の街角づくりについては、参加者の高齢化が進んでいるため、今後は新たなプレイヤーを確保し、参加者数の維持に努めていく必要があります。	
			課題②	地産地消を通じた、安全・安心な農産物の供給を促進するため、環境に配慮した農業を推進する必要があります。	
			課題③	生物多様性への理解と価値観の共有を継続的に促すため、既存の講座や企画展示、啓発物を効果的に関連させるなどして、取組を一過性のものにならないための様々な仕掛けが必要です。	
			課題④		
			課題⑤		

1	まちの将来像	6	心がけから行動へ みんなで創る環境にやさしいまち
2	施策	6-2	バランスのとれた自然環境をつくる

3 施策内の取組の評価

1	取組	6-2-1	都市とみどりの共存				
2	主担当課	部名	建設部	課名	公園緑地課	課長名 岡田 直司	
3	関係課	環境政策課、下水道施設課					
4	目標 (後期基本計画より)	市民や事業者・団体が、みどりの必要性を認識し、緑化活動や水辺の保全が進んでいます。また、公園や水辺は、市民で賑わっています。					
5	R4年度末現在の取組の現状	取組の評価	評価理由(R4年度の取組内容と成果、影響を与えた外的な要因等)				
		b	花と緑の街角づくり推進事業は目標を超える参加者数を維持するとともに、民有地緑化助成事業の補助件数及び緑の相談・緑の勉強会の参加者数については前年度に比して件数が倍増するなど、市民の緑化活動が進められており、概ね順調に進行しています。一方、緑の相談・緑の勉強会については目標値をわずかに達成していないことから、さらなる周知や新たな参加者層の掘り起こしが必要であるため、「b」評価とします。				
			a: 順調に進行 b: おおむね順調に進行 c: 進行にやや遅れ d: 進行に大幅な遅れ				
		参考指標	単位	めざす方向性	実績値		目標値(年度)
					R3年度	R4年度	
		花と緑の街角づくり推進事業の参加者数	人	↗	1,856	1,809	1,800(R4)
民有地緑化助成事業の補助件数	件	↗	4	8	6(R4)		
緑の相談・緑の勉強会の参加者数	人	↗	133	278	300(R4)		

1	取組	6-2-2	自然資源の利用の推進				
2	主担当課	部名	産業環境部	課名	農林課	課長名 谷田 明夫	
3	関係課	環境政策課					
4	目標 (後期基本計画より)	美しい里地・里山が保全され、環境に配慮した農地の活用が進んでいます。また、間伐材などの有効利用が多方面で進んでいます。					
5	R4年度末現在の取組の現状	取組の評価	評価理由(R4年度の取組内容と成果、影響を与えた外的な要因等)				
		b	里山保全では森林サポーター養成講座を開講し直近5年間で91名が修了するなど、森林保全ボランティア活動を推進しました。また、市民参加型里山保全活動や林業団体が行う森林整備に対し支援を行いました。遊休農地については、農地中間管理機構等を通じて新たな担い手の確保や、農業委員会とも連携した取組を進め、遊休農地面積は横ばいで維持しました。また、エコ農産物栽培を推進し、約13.6haの圃場で栽培支援を行いました。以上のことから施策の方向性に沿って概ね順調に推移していますが、遊休農地面積減少に向けた取組を進める必要があるため「b」評価とします。				
			a: 順調に進行 b: おおむね順調に進行 c: 進行にやや遅れ d: 進行に大幅な遅れ				
		参考指標	単位	めざす方向性	実績値		目標値(年度)
					R3年度	R4年度	
		森林サポーター養成講座受講者数	人	↗	0	25	25(各年度)
エコ農産物栽培面積	ha	↗	13	14	12(R4)		
遊休農地面積	ha	↘	1.7	1.7	1.5(R4)		

1	まちの将来像	6	心がけから行動へ みんなで創る環境にやさしいまち
2	施策	6-2	バランスのとれた自然環境をつくる

1	取組	6-2-3	生物多様性の保全				
2	主担当課	部名	産業環境部	課名	環境政策課	課長名 高橋 規子	
3	関係課	農林課、公園緑地課					
4	目標 (後期基本計画より)	生きものや自然とふれあう機会が増えています。 多様な生きものが生息・生育できる環境が整っています。					
5	R4年度末現在の取組の現状	取組の評価	評価理由(R4年度の取組内容と成果、影響を与えた外的な要因等)				
		b	環境資源補充調査について、令和4年度は7回実施し、市内の多様な生きものが生息・生育できる環境が大きく損なわれていないことを確認するとともに、調査員養成講座を5回開催するなど持続的な事業実施に向けて取組を行いました。また、8月には中央図書館において、市内の自然や生きものに関する紹介や生物多様性関係の講座等を行う「いばらきの生きもの博」を開催し、市民が生物多様性に興味を持つきっかけづくりを行いました。 以上のように施策の方向性に沿って概ね順調に推移していますが様々な市域の生きものや自然にふれる機会の創出が必要であることから「b」評価とします。				
		a: 順調に進行 b: おおむね順調に進行 c: 進行にやや遅れ d: 進行に大幅な遅れ					
		参考指標	単位	めざす方向性	実績値		目標値(年度)
					R3年度	R4年度	
	生きものや自然に関する学習機会の提供回数	回	↗	26	22	30 (R5)	
	生きものや自然に関する学習機会への参加者数	人	↗	4,988	4,208	4,500 (R5)	

4 学識経験者の意見

第三者による施策評価(外部評価)として、1～3に記載の市における評価結果について、学識経験者からご意見をいただきました。いただいたご意見は今後の市政運営の参考にさせていただきます。

1	学識経験者	立命館大学政策科学部 豊田 祐輔 准教授
2	意見等	<ul style="list-style-type: none"> ・「施策の現状と課題」において現状認識が適切になされており、その成果が概ねあがっていることから、総合評価「B」は妥当であると考えます。 ・北部の自然環境保護や市街地の緑化に加えて、茨木市内特有の、北部地域「いばきた」と「まち」をつなぐハブ拠点として捉えられている安威川ダム周辺地域や関連施設を、幅広い年代の自然環境に対する意識啓発などに活用するなど、引き続き取り組みを継続・発展していただきたい。

施策評価シート

1 施策の概要

1	まちの将来像	6	心がけから行動へ みんなで創る環境にやさしいまち		
2	施策	6-3	ライフスタイルの見直しで低炭素なまちをめざす		
3	対応するSDGs				
4	施策の方向性 (後期基本計画より)	市が率先して省エネルギー対策を行うとともに、市民や事業者と連携して、再生可能エネルギーの利用促進や省エネルギーの推進に努めます。また、情報交換の場を通じて様々な主体が連携し、新たな取組の輪を広げ、ライフスタイルの見直しで低炭素なまちをめざします。			
5	評価者等		部 名	補職名・課名	氏 名
		評価者(部長級)	産業環境部	部 長	松本 栄子
		施策主担当課	産業環境部	環境政策課	—
	施策関係課	総務課、危機管理課、建設管理課			
6	施策内の取組	6-3-1	省エネルギーの実践及び普及啓発		
		6-3-2	再生可能エネルギー・省エネルギー設備の導入促進		

2 令和4年度末現在の施策の現状と課題

1	総合評価	B	<p>A 施策の方向性に沿って順調に進行している。 B 施策の方向性に沿っておおむね順調に進行している。 C 施策の方向性に沿った進行にやや遅れが生じている。 D 施策の方向性に沿った進行に大幅な遅れが生じている。</p>		
2	評価理由(R4年度の主な成果、総合評価に影響を与えた外的な要因等)		R4年度末現在の施策の主な課題		
	<p>省エネルギーの実践及び普及に向けて、エコポイント制度について、年間を通じて市総合アプリで電子化したポイントの付与や景品申込を行うなど利便性を向上させることで、抽選申込件数を200件増加させることができました。</p> <p>環境イベントの参加者数については、新型コロナウイルス感染拡大前の件数までには戻っていないため、イベント開催の制限が撤廃された令和5年度以降については、開催PRや開催内容の充実を検討し、参加者の回復に努めます。</p> <p>また、市民1人あたりの温室効果ガス年間排出量については、数値の把握に数年かかり、令和元年までの状況は減少傾向にあります。令和2年については、新型コロナウイルス感染拡大による在宅時間の増加等の影響により増加しており、大阪府域全体の傾向とも類似しています。</p> <p>再生可能エネルギー導入の累計件数については、住宅用太陽光発電システム等の導入補助制度の実施により、緩やかに増加している状況です。また、市管理街路灯のLED化については、99%と高い水準を維持しています。</p> <p>以上のことから、施策の方向性に沿っておおむね順調に進行していますが、庁舎の省エネルギー化や市民の皆さまに対する普及啓発といった脱炭素化に資する取組を強化し、いっそう温室効果ガス排出量を削減する必要があることから、「B」評価とします。</p>		課題①	環境フェアは、令和4年度に対面開催としましたが、新型コロナウイルス感染症拡大前の件数には、戻っていません。参加者数の回復のため、開催内容の充実と参加の呼びかけに努めていく必要があります。	
			課題②	学校現場における環境教育の充実に向け、教員と連携しながら環境教育を実施していく必要があります。	
			課題③	エコポイント制度は、認知度を上げ、参加する市民を増やしていく必要があり、制度のさらなる利便性向上などを検討していく必要があります。	
			課題④	市管理街路灯のLED化については、引き続き修繕にてLED灯具への更新を実施し、LED化100%を目指す必要があります。	
			課題⑤	再生可能エネルギー導入について、導入可能性調査の結果やプラットホーム等を活用し、導入件数の増加を図る必要があります。	

1	まちの将来像	6	心がけから行動へ みんなで創る環境にやさしいまち
2	施策	6-3	ライフスタイルの見直しで低炭素なまちをめざす

3 施策内の取組の評価

1	取組	6-3-1	省エネルギーの実践及び普及啓発			
2	主担当課	部名	産業環境部	課名	環境政策課	課長名 高橋 規子
3	関係課					
4	目標 (後期基本計画より)	市民等の環境に関する意識が高まり、省エネルギーの実践が進んでいます。				
5	R4年度末現在の取組の現状	取組の評価	評価理由(R4年度の取組内容と成果、影響を与えた外的な要因等)			
		b	環境イベントについては、コロナ禍において一部中止などもありましたが、環境フェアは市内事業者や教育機関等も出展して対面で実施するなど、状況に応じて適切に開催し参加者は目標値を上回りました。エコポイント制度は、年間を通じて市総合アプリで電子化したポイントの付与や景品申込を行うなど利便性を向上させ、抽選申込件数が200件増えるなど普及啓発を進めました。			
			以上のことから施策の方向性に沿って順調に推移していますが、対面、オンラインも含めて環境イベントの実施方法や参加者の傾向などを検討し効果的に実施する必要があることから「b」評価とします。			
		a: 順調に進行 b: おおむね順調に進行 c: 進行にやや遅れ d: 進行に大幅な遅れ				
		参考指標	単位	めざす方向性	実績値	
			R3年度	R4年度		
市民1人あたりの温室効果ガス年間排出量(把握している直近2か年の実績値を記載)	t	↘	4.31 (R01)	4.89 (R02)	4.08 (R12)	
環境イベント等各種普及啓発事業への参加者数	人	↗	4,385	4,100	4,000 (R4)	

1	取組	6-3-2	再生可能エネルギー・省エネルギー設備の導入促進			
2	主担当課	部名	産業環境部	課名	環境政策課	課長名 高橋 規子
3	関係課	総務課、危機管理課、建設管理課				
4	目標 (後期基本計画より)	化石燃料に依存しない、再生可能エネルギーの導入により、低炭素な暮らしや事業活動の普及が進んでいます。				
5	R4年度末現在の取組の現状	取組の評価	評価理由(R4年度の取組内容と成果、影響を与えた外的な要因等)			
		b	再生可能エネルギー導入の累計件数は、住宅用太陽光発電システム等の導入補助制度を実施しており、引き続き半導体不足の影響などもあり単年度の補助件数は減少していますが、継続した取組を行っています。 総務課所管の公用車については、燃料電池自動車1台を含む低公害車の導入により燃料使用量を削減し、省エネルギーの実践に努めています。市管理街路灯のLED化については、99%と高い水準を維持しています。			
			以上のことから施策の方向性に沿って概ね順調に推移していますが、脱炭素社会に向け取組を加速させる必要があることから、「b」評価としています。			
		a: 順調に進行 b: おおむね順調に進行 c: 進行にやや遅れ d: 進行に大幅な遅れ				
		参考指標	単位	めざす方向性	実績値	
			R3年度	R4年度		
再生可能エネルギー導入件数(累計)	件	↗	6,600	7,000	6,000 (R4)	
市管理街路灯のLED化率	%	↗	97	99	100 (R4)	

4 学識経験者の意見

第三者による施策評価(外部評価)として、1~3に記載の市における評価結果について、学識経験者からご意見をいただきました。いただいたご意見は今後の市政運営の参考にさせていただきます。

1	学識経験者	立命館大学政策科学部 豊田 祐輔 准教授				
2	意見等	<ul style="list-style-type: none"> 「施策の現状と課題」において現状認識が適切になされており、コロナ禍においてもオンラインを活用した取り組みを進め、その成果が概ねあがっていることから、総合評価「B」は妥当であると考えます。 取組6-3-1について、エコポイント制度への参加は省エネルギーへの実践となることから、参加者数もしくは抽選申込件数などを参考指標に加えることを提案したい。 同様に取組6-3-1について、イベント等への参加者数も目標値を上回っており、市民1人あたりの温室効果ガス年間排出量も集計に時間がかかるものの目標値に向かって順調に減速していることから、「a」とみなせる成果であると考えられる。 				

施策評価シート

1 施策の概要

1	まちの将来像	6	心がけから行動へ みんなで創る環境にやさしいまち		
2	施策	6-4	きちんと分別で資源の循環をすすめる		
3	対応するSDGs				
4	施策の方向性 (後期基本計画より)	資源の循環とごみの減量化を図るため、新たな分別品目の追加検討を行うとともに、市民等への意識啓発に努めるほか、処理施設については、広域処理に向けて計画的に長寿命化工事に取り組みます。 また、市民、事業者は、ごみの発生抑制、再資源化に努め、きちんとした分別で資源の循環を進めます。			
5	評価者等		部 名	補職名・課名	氏 名
		評価者(部長級)	産業環境部	部 長	松本 栄子
		施策主担当課	産業環境部	資源循環課	—
	施策関係課	環境事業課			
6	施策内の取組	6-4-1	減量化の推進		
		6-4-2	再資源化の推進		
		6-4-3	適正処理の推進		

2 令和4年度末現在の施策の現状と課題

1	総合評価	B	A 施策の方向性に沿って順調に進行している。 B 施策の方向性に沿っておおむね順調に進行している。 C 施策の方向性に沿った進行にやや遅れが生じている。 D 施策の方向性に沿った進行に大幅な遅れが生じている。		
	評価理由(R4年度の主な成果、総合評価に影響を与えた外的な要因等)		R4年度末現在の施策の主な課題		
2	ごみの減量化推進に向けて、家庭系ごみについては、広報誌・ホームページ・アプリ等により積極的な啓発に努めました。また、マイボトル持参を推進する給水サーバー設置や、食品ロスに取り組む事業者との連携協定の締結により市民への周知・啓発に努めた結果、排出量は国や府に比べ低水準を維持しております。事業系ごみについては、事業所への訪問指導、環境衛生センターへの不適正廃棄物搬入検査等により減量の推進に努めましたが、コロナ禍からの景気回復により排出量は前年度より増加しました。ごみの再資源化推進に向けて、家庭から排出される資源物については、小型家電及び水銀使用製品の拠点回収やスプレー缶等のスポット収集を継続したほか、再生資源集団回収報奨金事業により市民の自発的な行動を促進するなど再資源化を推進しました。また、コンタクトレンズ空ケース回収を事業者と連携して開始するなどプラスチック資源循環について普及啓発に努めました。事業所から排出される資源物については、事業所を個別に訪問し、事業者ごとに個別の状況に応じた指導啓発により再資源化を進めました。ごみの適正処理の推進に向けて、収集については、家庭からのごみや資源物を12種に分別し適正処理と資源化に努めました。また、令和5年4月からの摂津市との広域処理開始に向け、施設整備を進めるとともに、「循環型社会の形成に係る広域連携推進会議」において協議し、事務委託の規約を定めました。災害時のごみ処理については、環境省のモデル事業に参加し、災害時にボランティアセンターを設置する社会福祉協議会と災害時のごみ処理に係る協議を進めました。以上のように施策の方向性に沿って概ね順調に進行していますが、ごみの中でも多くを占める食品ロスの削減や、プラスチックごみの削減と資源循環をさらに推進するとともに、摂津市とのごみの広域処理開始に伴う諸課題への対応や、災害時のごみ処理にかかる民間等との連携を推進する必要があるため、総合評価は「B」とします。		課題①	家庭系ごみ減量化及び再資源化について、一般廃棄物処理基本計画の目標達成に向け、重点施策である食品ロス削減やプラスチックごみ削減等について、さらなる取組が必要です。	
			課題②	事業系ごみの減量化及び再資源化について、一般廃棄物処理基本計画の目標達成に向け、事業者に対して、適正な分別や再資源化促進の指導、啓発に引き続き努める必要があります。	
			課題③	摂津市とのごみの広域処理開始により発生した諸課題について、両市が連携して取り組む必要があります。	
			課題④	災害廃棄物処理計画にあげられた平時の取組を中心に、災害時のごみ処理に係るボランティアとの連携に関する協議や、民間事業所との受援協定の締結などの事業を推進していく必要があります。	
			課題⑤	近隣地区の開発事業と調和した景観とするため、施設の外構整備を進めていく必要があります。	

1	まちの将来像	6	心がけから行動へ みんなで創る環境にやさしいまち
2	施策	6-4	きちんと分別で資源の循環をすすめる

3 施策内の取組の評価

1	取組	6-4-1	減量化の推進				
2	主担当課	部名	産業環境部	課名	資源循環課	課長名 村上泰司	
3	関係課	環境事業課					
4	目標 (後期基本計画より)	家庭系ごみや事業系ごみが減少しています。 不適正ごみの搬入を未然に防ぎ、ごみの減量・適正化が図られています。					
5	R4年度末現在の取組の現状	取組の評価	評価理由(R4年度の取組内容と成果、影響を与えた外的な要因等)				
		b	家庭系ごみについては、広報誌・ホームページ・アプリ等により積極的な啓発に努めました。また、マイボトル持参を推進する給水サーバー設置や、食品ロスに取り組む事業者との連携協定の締結により市民への周知・啓発に努め、排出量は国や府に比べ低水準を維持しております。事業系ごみについては、事業所への訪問指導、環境衛生センターへの不適正廃棄物搬入検査等により減量の推進に努めましたが、コロナ禍からの景気回復により排出量は前年度より増加しました。以上のように概ね順調に進行しておりますが、さらにごみの削減と資源循環を推進する必要があるため、総合評価は「b」とします。				
			a: 順調に進行 b: おおむね順調に進行 c: 進行にやや遅れ d: 進行に大幅な遅れ				
		参考指標	単位	めざす方向性	実績値		目標値(年度)
					R3年度	R4年度	
市民1人1日あたりの家庭系ごみ排出量(資源物を除く)	g/人・日	↘	441	424	392(R7)		
事業系ごみ年間排出量	t	↘	45,068	45,677	44,266(R7)		

1	取組	6-4-2	再資源化の推進				
2	主担当課	部名	産業環境部	課名	資源循環課	課長名 村上泰司	
3	関係課	環境事業課					
4	目標 (後期基本計画より)	家庭や事業所のごみが、きちんと分別されています。 ごみの資源化率が上昇しています。					
5	R4年度末現在の取組の現状	取組の評価	評価理由(R4年度の取組内容と成果、影響を与えた外的な要因等)				
		b	家庭から排出される資源物については、小型家電及び水銀使用製品の拠点回収やスプレー缶等のスポット収集を継続したほか、再生資源集団回収報奨金事業により市民の自発的な行動を促進するなど再資源化を推進しました。また、コンタクトレンズ空ケース回収を事業者と連携して開始するなどプラスチック資源の循環について普及啓発に努めました。事業所から排出される資源物については、事業所を個別に訪問し、事業者ごとに個別の状況に応じた指導啓発により再資源化を進めました。以上のように、施策の方向性に沿って概ね順調に推移していますが、さらに再資源化への取組を推進する必要があるため、「b」評価とします。				
			a: 順調に進行 b: おおむね順調に進行 c: 進行にやや遅れ d: 進行に大幅な遅れ				
		参考指標	単位	めざす方向性	実績値		目標値(年度)
					R3年度	R4年度	
資源物回収量	t	↗	11,660	11,178	15,171(R7)		

1	まちの将来像	6	心がけから行動へ みんなで創る環境にやさしいまち
2	施策	6-4	きちんと分別で資源の循環をすすめる

1	取組	6-4-3	適正処理の推進				
2	主担当課	部名	産業環境部	課名	環境事業課	課長名 中村 誠二	
3	関係課	資源循環課					
4	目標 (後期基本計画より)	ごみが適正に分別収集され、資源の循環が進んでいます。 ごみの効率的な処理に努め、ランニングコストの抑制が図れています。					
5	R4年度末現在の取組の現状	取組の評価	評価理由(R4年度の取組内容と成果、影響を与えた外的な要因等)				
		b	収集については、家庭からのごみや資源物を12種に分別し適正処理と資源化に努めました。施設整備については、令和5年4月からの摂津市との広域処理開始に向け「循環型社会の形成に係る広域連携推進会議」において協議を進め、事務委託の規約を定めました。また、災害時のごみ処理については、環境省のモデル事業に参加し、災害時にボランティアセンターを設置する社会福祉協議会と災害時のごみ処理に係る協議を進めました。経費については、燃料費・光熱水費等の高騰に伴い処分経費が上昇しており、課題となっています。以上のことから施策の方向性に沿って概ね順調に推移しておりますが、さらにランニングコストの抑制を図る必要があることから「b」評価とします。				
			a: 順調に進行 b: おおむね順調に進行 c: 進行にやや遅れ d: 進行に大幅な遅れ				
		参考指標	単位	めざす方向性	実績値		目標値(年度)
					R3年度	R4年度	
	市民一人当たりの収集経費	円	→	5,489	5,426	5,600(R7)	
	市民一人当たりの処分経費	円	→	7,435	8,981	7,500(R7)	

4 学識経験者の意見

第三者による施策評価(外部評価)として、1～3に記載の市における評価結果について、学識経験者からご意見をいただきました。いただいたご意見は今後の市政運営の参考にさせていただきます。

1	学識経験者	立命館大学政策科学部 豊田 祐輔 准教授
2	意見等	<ul style="list-style-type: none"> ・「施策の現状と課題」において現状認識が概ね適切になされており、一定の成果があがっていることから、総合評価「B」は妥当であると考えます。 ・食品ロスなどは意識が高まっていますが、なかなか行動や取組に結びつかない点もあると思われる。市民啓発に加えて、すでに実施しているフードシェアリングサービス関連事業者との連携や、フードバンクとの利用を積極的に図るなど、資源の循環を引き続き進めていただきたい。